

8月21日(日)



四万十うなぎの  
ちらし寿司

1パック

1,000円 (税込)

西田鮮魚店

72-5246

専用番号 090-7125-5489 <御用聞き便 (旧庄原市内はご自宅に配達)>

今年はず年と違い行動制限ないお盆で、久々に知人友人、親戚の方や家族と会えた方も多いかと思えます。西田鮮魚店も、今年はず賑わう光景が久しぶりで早くこの光景が戻るように願うばかり…。

話は変わりますが、先月の丑の日に、販売致しました四万十川鰻、お客様からの問い合わせも多く、今も販売をしています。美味しかったという声を沢山頂いて、更に何か違う食べ方提案が出来ないか？考えていた所、鰻のちらし寿司になりました。鰻と胡瓜が抜群の相性で、さっぱりと味わえます。更に楽しみたい方は、ご家庭にある出し汁をかけるのとひつまふし風に!!半分そのままで、半分は出し汁をかけてみては??どえりゃうまいけ!!

まだまだ暑い夏を乗りきり、食欲の秋に備えましょう。価格は1000円。さあいらっしゃい!!

6月より当店に研修で来ていた新卒の長崎大雅(ながさき)さんが22歳が今月より西田鮮魚店の社員となり、ラスト販売では存在感のある大きな声で活躍してくれています。

若さと明るさで新たな活気を生んでくれます。どうぞ、よろしくおねがいします!!

西田鮮魚店 店長 祐宗 優司

# 『濡れ落ち葉にはなりません』

鮮コーポレーション(株) 代表取締役会長 西田 昌史

お盆もどうやら片がついた16日の朝。

「昼ごはん、どうします？帰るのは12時過ぎになるけど。」と悦子。

エンゼルスの大谷が投げているこの試合。初回、ホームランを打たれて、昼ごはんどころではない私は、悦子が暗に、昼ごはんを作る時間がないのだということを言いたいのだと、敏感に察知して「お好みでいい」。悦子は悦子で、大谷を見ている私が、動きたくないのだと察知。夫婦ならではの阿吽の呼吸で、『螢』のお好み焼きの持ち帰りに決まりました。

そして、一時前に帰って来た悦子が言うには、「注文が立てこんで一時半ころになるんじゃないか。」そうか、今日はお好みなんじゃ。それもお持ち帰りが多いんじゃないか。

寿司だ、刺身だ、焼肉だと、贅を尽くした13日・14日・15日。その後、広島県人の体が求めるのは、お好み焼き。今さらながら、です。

大谷は6回、2対2で降板していたので、もう見る義理もなし（結局、リリースが打たれて負けました）。そんなら食べに行こうと決め、お店へ。『螢』ならではの、ラードを使わない、体にやさしい、お好み焼きをいただきました。

その帰り、お墓の花を入れ変えにお寺へ。

前日、末の弟夫婦と長女の婿と子供（孫）3人と一緒に、送り火を焚きに行った時、小学3年生の孫娘に「お墓に誰が入ってん？」と聞かれ、「爺じのお父さんとお母さんとお兄さん」と話して、「爺じや婆ばも、ここに入るんじゃない」と教えた、と悦子に話すと、「最近、よく、そんな話をするね。年の話とか……」と、心配そうに答えます。どうも、私が年をとって、気が弱くなっているみたいと感じているらしい。

そりゃ、そうかもしれません。家にいる時間も長いし、会社のことにもほぼ口を出さない。この盆も、家にいて裏庭の草取りに没頭し、あげく墓に入る話をする私を見てると、大丈夫かと思うのもわからんことありません。

そりゃ、そうだけど70才の私が、若いころのように、やる気に充ち、店を回り、みんなを鼓舞し、意見する方がいいのか、盆真っ最中というのに、家にいて、草をむしり、大谷の心配をし、昼ごはんを何にしようかと迷う方がいいのか。

幸い、3年も続くコロナ禍にも音を上げず、前を向いて頑張る若いスタッフたちがいます。30代、40代の元氣盛りが軸になり、店に立ち、お客様を迎え、しぶとく、しぶとく店を回しています。LINEだINSTAGRAMだオンラインだと最新のツールを駆使しながら。どう見ても、彼らの方が上をいっています。

今のところ、彼らの邪魔だけはしたくない。時計を巻き戻すようなことだけはしたくない。口出ししない方がいい、と私は思い定めています。

とはいえ、そんなことばかり言っているのはダメというのもわかっています。いくつになろうと前を向いて歩かんと生きる値打ちも無くなるとういもの。

だから、私は悦子に話しました。

「65才でマラソン（という程でもないが）を、67才でジム通いを始めたじゃないか。

結婚したところ、洋服ひとつ自分で買えなかったワシが、今では自分のものは自分で買えるようになったじゃろ。これでも、オシャレじゃねと褒められる（悦子に鍛えられたおかげですが）。

知識、感性を磨くために、暇があれば安上がり（交通費は除く）だけど、映画を見に広島に行つとるじゃろ。最近、ハズキルーペを買ってから、また、本を読めるようになってきた。

頻繁に旅行に行つて気になる店も見て来るし、美味しいものを食べに、どこまでも行く（酒も……）。

心配いらん。ワシは濡れ落ち葉にはならん」

私が頭に描く年寄り像があります。あの黒沢明の『七人の侍』に出てくる長老。

戦国時代のある小さな村。毎年秋の収穫が終わったところに襲撃し掠奪、人までもさらっていく野武士の一团。今年も、やって来る頃。もうたくさんだ。村の男たちが集まって話すも堂々巡り。諍い（いさかい）が起きそうになる。その時、「爺さまに訊いてみよう」との声があがり、一人の長老に相談に行く。その長老が言います。「侍を雇え」と。意外な言葉にみな驚く。「侍（浪人）は皆、腹を空かせている。飯を食わせてやると言えば来る。」そこから、物語が始まります。私は、この爺さまのようになりたい。普段は、何もしない言わない。しかし、みなが困り果て相談に来たとき、ズバっと本質を突いた知恵を授ける。ステキです。

若い頃は知恵はあっても知恵が足りません。窮した時に身を助けるのは知恵。

しかし、年寄りだからといって、ぼーっと暮らしていて知恵が湧くはずもなく……。

若いころ、よく言われました。自分に投資しろと。それは70才になった今でも変わりません。

さて、今日の昼ごはんは……？

